

CeMI 気象防災支援・研究センター
News Letter

Contents

1. 大雪に備える
2. 初めての「北海道・三陸沖後発地震注意情報」
3. 最果ての気象観測所 南鳥島気象観測所

1 大雪に備える

年が明けると本格的な雪の季節です。最近10年くらいは豪雪と言われるような極端な大雪はなかったものの、雪による人的被害や鉄道、道路交通などへの影響は毎年のように繰り返されています。

2023年1月24日には京都周辺での降雪により鉄道が大きく混乱し、約7000人の乗客が一時車内に取り残されました。また、翌2024年の同じ1月24日には、関ヶ原付近に降った雪の影響で名神高速道路などで6km前後に及ぶ車両の滞留



(出典:国土交通省近畿地方整備局資料)

大の危険とされていましたが、1990年代以降、降雪量の減少などもあり集落における大規模な雪崩災害は起こっていません。

雪崩による災害が少なくなった一方、近年では大雪時の



屋根の雪下ろし作業中や屋根からの落雪、除雪作業中の水路への転落などの事故が増えてています。多雪地における過疎化や高齢化の進展、除雪のための資機材や人員の確保が難しくなってきたことなどが原因とされています。

こうした災害、事故への対策としては、国をはじめ地方自治体、鉄道事業者や道路管理者などにおいても様々な取組が行われていますが、効果的な対策を行っていく上で重要なことは気象情報をいかに効果的に利用していくか、ということでしょう。近年の気象の予測技術の進展はめざましく、大雪に限っていえば1週間から5日程度前には大雪の予測が可能になってきています。こうした予測をもとに気象庁と国土交通省では大雪が予想される3日程度前には“緊急発表”を行って警戒を呼びかけるようになりました。大雪への備えとして時間的余裕は確保されていると考えられますが、前述の京都周辺での鉄道の混乱、高速道路での滞留などでは、事後の検証の中で、予想を上回る降雪量によりポイントの転換や除雪の困難などが生じたとされています。降雪量の予測では数センチ単位での精度を求めるることは困難です。気象情報における降雪量の値に対しては、予測の誤差〔幅〕があることを考慮しなければなりません。雪への事前の対策では、予測を上回る降雪があることも想定しつつ、十分な備えをしておくことが大切です。



2 初めての「北海道・三陸沖後発地震注意情報」

12月8日23時15分に青森県東方沖でマグニチュード7.5の地震が発生しました。それに伴い、日本海溝・千島海溝沿いで新たな大地震が発生する可能性が平時よりも相対的に高まっていることへの注意を促し、更に大きな地震が発生した際に想定される甚大な被害を少しでも軽減することを目的として、翌9日02時00分に「北海道・三陸沖後発地震注意情報」の発表と、るべき防災対応の呼びかけが行われました。

国は、この情報が発表された際ににおける自治体、企業、個人の防災対応についてのガイドラインを公表していますが、「注意・警戒」と「社会経済活動継続」という相反する意味合いの対応を求める難しい情報で、最終的な判断は現場に委ねられています。

今回の情報発表に伴って呼びかけられた「るべき防災対応」は右図のとおりです。「日頃からの地震への備えの再確認」と「特別な備え」の2重構造になっており、それらを実施した上で「社会経済活動を継続すること」が呼びかけられました。

TVや新聞による報道によると、この情報発表に伴い、そ



(出典:内閣府(防災担当)報道発表資料)

それぞれの自治体・企業・個人において避難計画の再確認、防災用品の在庫状況の確認および補充など日頃からの備えなど適切な対応が見られました。一方で、当該地域への旅行の中止など過剰な対応と思われる報道もありましたが、総じて大きな混乱はなかったようです。

2022年12月の運用開始以来、今回が初めての発表でしたが、過去の地震活動の状況から、この情報は2年に1回程度の頻度で発表されることが想定されています。今後、発表された際に迷わないよう、今回の対応の是非を振り返って、それぞれの自治体・企業・個人で具体的な行動を検討しておくことが望されます。

3 最果ての気象観測所



南鳥島の全景（出典:気象庁HP） なっている場所です。クイズ番組では、よく日本の最東端ということで出題されることがあります。

南鳥島は東京より南東へ約1,862キロメートルも離れたところにあります。今は、一般の人が行くことはできません。ここへ行くためには、自衛隊の飛行機などで行くしかないので。また、この島は、一辺の長さがおよそ2キロメートルの三角形をしており、標高は最高地点でも約9メートルしかありません。

実は、この島には気象観測所があります。南鳥島気象観測所では、天気や気温などの地上観測だけでなく、高層気象観測も行っています。太平洋上の周辺に観測点がないので、重要な定点観測地点としての役割を担っています。



掲載内容へのご意見、そのほかサービスに関するご相談・ご要望などございましたらお気軽にご連絡ください。



NPO法人 環境防災総合政策研究機構(CeMI)
気象防災支援・研究センター

〒160-0011 東京都新宿区若葉1-22ローヤル若葉105号
<http://www.npo-cemi.com/center.html>

南鳥島気象観測所

それ以外にも地球の気象観測で重要な役割があります。この島は周辺に島がない、すなわち周辺に人が住んでなく人間活動の影響を全く受けないという特徴があります。その特徴を生かして、二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの観測を行っています。南鳥島気象観測所で得られたデータから、温室効果ガスの濃度が地球規模で年々増加していることが明らかになっています。この他にも、オゾン層や日射・放射の観測など、地球環境に関する様々な観測を行っています。また、南米チリ沖など、日本から遠く離れた太平洋で発生した地震に伴う津波を日本沿岸に到達する前に捕えるため、津波の観測まで行っているのです。

話は変わりますが、南鳥島には、気象庁職員のほか自衛隊や国土交通省の港湾事務所の職員しか駐在していません。お店も何もないので、2~3か月で駐在職員は交替しているようです。また、一番高いところでも9メートルしかありませんので、強い台風の接近時などには、全員避難しなければなりません。このような過酷な環境の下で毎日観測を行って、地球を見守り続けている職員のみなさまに感謝ですね。

03-3359-7971

03-3359-7987

advisory@npo-cemi.com

